

第1章 戦場

南西諸島（マリアナ沖）から南方（フィリピンレイテ島沖）へ 艦隊敗北から奇跡の生還

みさわせいじ
三澤清治さんのお話から

○支那事変 昭和十二（一九三七）年から昭和二十（一九四五）年の間、日本と中華民国との間で行われた日中戦争に対する当時の日本の呼び方。

○大東亜戦争 日本は、アメリカ、イギリスとの開戦後、それ以前から継続中だった対中国戦争を含めて「大東亜戦争」（大東亜とは東アジア、東南アジアのこと）と呼んだ。

○カッター 複数でオートを漕ぐ大型のボート。

○巡洋艦 軍艦の一種。

私が丘珠の尋常小学校六年生（今の小学校六年生）の時、昭和十二（一九三七）年に支那事変と呼ばれる戦争が始まりました。お父さんたちは支那戦の戦闘員としてどんどん前線に出て行きました。昭和十六（一九四一）年十二月八日、大東亜戦争が始まりました。朝七時、ラジオの臨時ニュースで「本朝、南太平洋上において米英両国と戦闘状態に入る。」と流れました。放送を聞いた私は、アメリカやイギリスと戦争を始めたから、日本はこれから大変なことになるなと思いました。

男という男は、どんどん戦争に駆り出されました。私は、どうせ軍隊に入れられるなら一年でも早いほうがいいという思いと、一足先に志願して同年代の先を越してやろうという思い、集団生活で根本から自分を鍛えてみたいという思いや、外国に行ってみみたいという思いもあって、昭和十八（一九四三）年に志願して海軍に入ったのです。

私が入ったのは横須賀海兵団の第二海兵団でした。そこではすごく鍛えられました。入団するなり、土木作業に追い回され、隊内では「軍人精神きたえ棒」と呼ばれる檜の木で、しこたま尻を叩かれました。基礎訓練を終えると、海軍工機学校に入り、そこでまた三カ月訓練を受けました。私は過酷な農業労働を日々送ってきただけに、カッター競技でもその腕っぷしを評価され、人より早く工機学校発電科を卒業し、十九（一九四四）年四月十六日に教習を終えました。

卒業時に海軍から希望をとられたので、私は巡洋艦に乗ることを希望しました。すると、軍艦高雄への乗り組みを命じられました。高雄は一等巡洋艦で、長さが二百七メートル、船の幅が

戦艦より小さいが航続力がある。

○玉碎たまくだ 全力で戦い、潔く死ぬこと。当時は、それが名誉・忠節を守ることとされた。

二十七メートル、全速を出せば三十三ノット(時速六十キロ)と日本の海軍では最優秀艦でした。シンガポールで艦隊訓練をやって、今度はパラオ島のサイパン作戦に向かいました。この作戦には、十隻ぐらいで向かい、戦艦大和やまとが先、我々航空巡洋艦が後になり、サイパン島奪回だっかいのために飛行機を飛ばしたのです。ところが、その情報がアメリカに全部渡っていて、こちらから飛ばした飛行機は全く帰ってきませんでした。日本の飛行機が飛んでいった時には、向こうの飛行機が全部舞い上がっていて、日本の飛行機はほとんど迎え撃ちきれなかったので帰ってこなかったのです。我々は琉球(沖縄)りゅうきゅうのほうへ全速で逃げました。そのとき、航空母艦大鳳たいほう、翔鶴しょうかくという三、四万トンのクラスの航空母艦二隻が潜水艦からの雷撃を受け撃沈されました。サイパン作戦は日本の大失敗に終わり、サイパン島は取られてしまいました。サイパン島には日本兵がたくさんいたので、全部玉碎たまくだしました。アメリカはサイパン島に飛行場を作り、日本への空襲の足場としました。そして昭和十九(一九四四)年十月に、レイテ沖海戦が始まりました。フィリピンを奪回しようとするマッカーサーが来たのです。日本は、フィリピン奪回を阻止そしするため、戦艦大和、武蔵むさしを先頭に進む連合艦隊で、ブルネイというところからレイテを



一等巡洋艦「高雄」

イメージ図

○艦橋 航行中に操作や通信を指揮するところ。

目指して戦艦十隻と巡洋艦じゆんようかんからなる約四十隻近い大艦隊で出動しました。

ところが、二十三日朝、パラワン島に来たとき、日本の連合艦隊の真まっ只中ただなかにゲリラ潜水艦が二隻いたのです。私は高雄たかおの機関兵で、一番下の発電機の部屋で船の発電機を回していたところ、「ドン」と衝撃が来ました。高雄たかおがいよいよ祝いの大砲を撃つたのかと思っていたら、続いてまた「ドン」と来て、船がぐらぐらと揺れました。アメリカの潜水艦の魚雷が二本命中したのです。最初は艦橋へ一発、次に後部の舵機室に一発。命中したところから火がふき出し、海水が入ってくるので、船はぐっと傾いてしまいました。上の甲板かんばんへ這い上がってみると、戦死者や負傷者がごろごろいました。

「戦闘閉鎖！」とスピーカーが鳴り、艦内のゴム

ハッチが閉められ、私たちはすぐにタンクの下に集まりました。高雄たかおの艦尾二十メートルはばらばらにもぎとられて、スクリューや舵かじもやられて、船体には穴が開いていました。みんな船にしがみついてもぎとられて、スクリューや舵かじもやられて、船がやられたときに火災が起き、煮立っているような熱い蒸気のせいで火傷を起こす人が多くいました。泳いでいるところを救われた二、三百人も大半が火傷を負っています。衝撃をうけて噴き出す蒸気で肉が溶けたり、重油が燃えている海を



魚雷が命中した艦内の様子

イメージ図

○轟沈^{ごうせん} 攻撃を受けて瞬時に沈むこと。

泳いで火傷になったりするなど、辺り一面修羅場と化して、地獄絵のようでした。

舵^{かじ}も取られていたので船が沈むかと思いましたが、高雄^{たかお}は沈みませんでした。愛宕^{あたご}と摩耶^{まや}は猛攻を受けて愛宕^{あたご}は二十分後に、麻耶^{まや}は音を立てて轟沈^{ごうせん}してしまいました。

高雄^{たかお}が被雷したその時、戦死した仲間が四十七名。その晩、医務室は、一晚中火傷のけが人のうめき声やら何やらで、ものすごかったです。我々は、もう一回魚雷が来たら船が沈むから、甲板に裸で寝て、魚雷が来たら海へ飛び込めと命令されましたが、どうとう潜水艦は来ませんでした。それから高雄^{たかお}は、応急舵^{かじ}を横に付け、ボルネオに引き返しましたが、四十隻あった日本の連合艦隊のほとんどが沈められていました。

日本海軍はものすごい船を持っていたけれど、ほとんどの連合艦隊は行動が取れなくなっていました。私はシンガポールのセレーター軍港に寄って整備をしていたときに終戦を迎えました。

日本軍が無条件降伏をした八月十五日に、我々はシンガポールで、広島と長崎に原爆が投下されたという情報を聞きました。原爆で一度に何万、何十万人の人が殺され、日本がついにポツダム宣言を受諾したということでした。私は、あの時日本が決断を下したのは本当によかったと思います。最後まで戦いをやらずに、日本が残ったのですから。この太平洋戦争で三百万人が死んでいるのですからね。

戦争だけはこれから絶対に起こさないことを肝^{きも}に銘^{めい}じて帰ってきました。

DATA

平成23年度東区平和事業
聞き取り

- ・平成23年10月1日
- ・丘珠小学校



三澤清治(みさわ・せいじ)さん

- ・大正15(1926)年生まれ
- ・札幌市東区在住